

令和4年度 自己評価結果公表シート

学校法人みなと幼稚園
みなと幼稚園

1、本園の教育目標

幼児の個性と成長発達に段階に応じた、かたよらない総合的な指導を行い、調和のとれた心身の発達を促進し、たくましく生きぬく心身の基礎を培うことを教育の目標としています。

- (1) 心身の調和的な発達を図り、健全な心身の基礎を養う。
- (2) 日常生活の中でよい習慣や態度を身につけさせる。
- (3) 自分のことは自分でする精神の芽生えを養う。
- (4) 自然への興味や関心を持たせる。
- (5) ことばの正しい使い方を身につけさせ、創造性豊かな表現力を養う。
- (6) 豊かな音楽的感覚を養い、美しい情操と創造的な表現意欲を高める。
- (7) 美しいものに興味や関心をもち、豊かな造形表現ができるようにさせる。

2、重点的に取り組む目標・計画

本園の教育目標に基づいて、各教職員間で共通の認識をはかり、自身の教育を見つめなおすこと。また、教育の質の向上に努め主体的に教育内容の改善に取り組めるようにする。

3、評価項目の達成状況及び取組状況

評価項目	取組状況
園の教育理念・目標について、教職員間で共通の理解を図る	教育理念・目標については、普段からも個々で意識するよう心掛け、職員会や学年の打ち合わせで、それを踏まえながらカリキュラムの設定を行っている。
指導計画の作成と、環境の構成	幼児教育要領及び園の教育目標・方針に沿いながら、前年の反省点などを踏まえ指導計画を作成。園児の興味や関心、自発的な遊びや、友達との協力など引き出せるよう作成した。また、園児が主体的にかかわりたくなるような環境を構成している。
教育の質の向上、スキルアップへの取り組み	知識を吸収し、専門性を向上させる為、年間を通じて、外部研修会に積極的に参加をしているが、一部オンラインもあり。また、園内に講師を招いての内部研修会や、職員同士で意見の交換をすることで、保育に必要な知識を互いに吸収するようにしている。

健康と安全への配慮	新型コロナウイルスへの感染が日常的になり、学級閉鎖が相次いだ。手洗いや手指消毒の徹底など、予防には努めたがなかなか抑え込むことが出来なかった。安全面では、静岡県で発生したバス車内での園児置き去り事故をきっかけに、バス車内に安全装置を設置すると共に、置き去りの無いように確認する体制を再度徹底することにした。また引き続き警備員の配置、防犯カメラの設置、AEDの設置、消防訓練及び防犯訓練の受講によりいざという時に、速やかに行動できるよう心掛けている。また、年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけを行い、危険な遊びがあれば注意を促している。
保護者との関わり	新型コロナウイルスの影響により中止にしていた参観日を、男の子の園児の日・女の子の園児の日と2日に分けて、教室に入る保護者の人数を分散して開催した。園での子ども様子を見て喜んでいただき、また担任と直接会話をすることでよりコミュニケーションを取ることができた。また、個人懇談においても幼稚園での普段の生活の様子を話し、逆に家庭での様子についても聞いている。
地域社会との関わり深める	子育て支援事業の一環としての園庭開放も、昨年までと違い開催回数を増やした。広い園庭と大きな遊具で遊ぶことが出来、満足頂いていると思う。しかし、近隣の小学校との地震津波合同避難訓練は依然新型コロナウイルスの影響で中止となったままなので、来年度以降は開催に漕ぎつけたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>本園の教育目標を元に、子ども達そして先生が安全で安心して教育に取り組める環境の整備が幼稚園の運営に目標になる。しかしながら今年度も新型コロナウイルスにより、幼稚園の保育・行事にも大きな影響が出た。休園・学年閉鎖・学級閉鎖で、保育に時間の余裕が無くなり、ゆとりのある保育が出来なかったという意見が昨年度に続き多い。ただ、マスクの着用については昨年度と違い、園児は自由に、先生は屋外や距離が取れる場合は外すようにした。そのことにより、互いの表情がわかり言葉も伝わりやすくなった。</p> <p>教員の自己評価に於いては、それぞれに反省点を挙げている。それらの、反省点を改善できるように幼稚園としてどう取り組むのかを検討する必要があると思われた。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園内環境の整備	危険個所の発見や改善を行う。経年劣化が見られる設備に於いては、順次入替を行いたい。大型遊具の塗装。

危機・安全管理体制の整備	地震・津波・火災に対する避難訓練、防犯訓練、交通安全教室の実施、子どもの安全安心を考えた取り組みを一層強化する。
若年教員の育成及びスキルアップ	今年度についても、新任教員の育成が重要であった。幼稚園連合会主催の研修への参加はもちろんの事、先輩教員からのアドバイスも丁寧に行い、当園の教員としてのスキルを身に付けてもらった。中堅以上の教員については、毎年同じ保育をしていないか、保育に対して情熱をもって取り組んでいるかなど、自己研鑽をして目標をもって保育に取り組むように心掛けた。
教職員が働きやすい職場の提供	教員の採用が年々難しくなっている。より一層の働きやすい職場とするため、何が必要かを常に考えている。働き方改革を意識し、就労時間の短縮、非正規職員の増員など労働環境の改善に力を入れた。
園児数減少の改善	前年度に引き続き園児数の減少に歯止めがかからない状況になっている。少子化・新制度の影響により幼稚園を取り巻く環境が変わったことが主な原因と思われる。この状況の中で、どうすれば改善できるかを考え、早急に取り組む次第である。

6. 学校関係者の評価

令和4年度の掲げられた目標に対して、先生方の自己評価シートを拝見し、それぞれの教育保育を見つめ直して、何が足りなかったかを分析し、今後の保育にどう活かすことが出来るかなどが読み取れました。また、園長先生ともお話をし、日々の業務の中で教職員間の共通の認識を欠かすことの無いように意識されている事、また各教員がスキルアップ出来るように、その教員に必要と思われる研修などを受けさせるよう配慮していることが分かった。また、今後取り組むべき課題も適切に提起されていて、幼稚園の運営また施設についても適宜改善されているように思えた。これからも、子ども達の安全と安心、そして教育の充実を図って頂きたいと思う。

7. 財務状況

公認会計士による会計監査で、適正な会計が行われていると判断された。